

小論文：「民営化／市場原理」は社会にどのような負の効果をもたらすか（800字以内）？

氏名：\_\_\_\_\_

「効率化」「経費削減」の名のもとに、様々な分野で民営化や市場原理の導入が相次いでいる。しかし、これらが必ずしもプラスの効果を与えているとは言えない状況だ。アメリカでは、医療や教育の分野にも市場原理が導入されている。その結果、医師や教師が貧困層に転落するという事態が発生している。彼らは「民営化／市場原理」の負の側面に巻き込まれたのである。

確かに民営化政策は表面的には成功したかのように見える。「自由」という言葉に弱いアメリカ人はこぞってそれに賛同した。その一方でそのしわ寄せを押し付けられた現場の人間たちが疲弊しているという実態がある。また、社会的弱者が公的サービスを十分に受けられないという問題点が浮上してきた。ごく一部の者だけがメリットを享受し、その他大勢は切り捨てられたように思えてならない。

医療や教育といった分野の民営化や市場原理の導入は、社会の受け皿であるセーフティ

ーネットを崩壊させてしまったと言えよう。国民の生命を守ることや国の将来を担う子どもたちの育成は、政府にとって最優先させるべき事項ではなかったか。そして現場で前線に立つ医者や教師たちが蔑ろにされてしまっている。「医者たちは訴訟におびえてお抱えの弁護士を雇い、子どもたちよりも先に消耗する教師たちは精神分析医を雇う。競争原理が支配する社会では、自らの身を守るためのコストが異常なスピードで釣り上がってゆく。」これが「自由」の成れの果てである。

中間層だった人々が一気に貧困層に転落してしまうというのは、ゆくゆくは社会と国の弱体化を招きかねない。何が必要で必要でないか、どこにお金をかけるかという見極めと、こういう事態が自分の身に起こり得るものと意識して考えていかなければならない。日本はアメリカを反面教師として、過度な民営化と競争原理の導入に走らないようにすべきである。